

会議録

会議の名称	令和8年度第1回西東京市特別支援教育推進計画策定懇談会
開催日時	令和8年5月11日（月）午後2時30分から4時00分まで
開催場所	田無第二庁舎5階会議室
出席者	【委員】長沼座長、前田副座長、平林委員、村田委員、菅野委員、中島委員、澤井委員、影山委員、小巻委員、鈴木教育指導課長、高野教育部統括指導主事 欠席：佐伯委員 【事務局】山崎教育部主幹（教育指導課）、坂本教育指導課特別支援教育係長、織本教育指導課特別支援教育係主事
議題	議題1 委嘱状の交付について 議題2 座長、副座長の選任について 議題3 特別支援教育の一層の充実に向けて 議題4 西東京市特別支援教育推進計画策定スケジュールについて 議題5 特別支援教育に関する国・都の動向について 議題6 西東京市におけるこれまでの特別支援教育の取り組みについて 議題7 西東京市特別支援教育推進計画施策体系（案）について
会議資料の名称	資料1 西東京市特別支援教育推進計画策定懇談会設置要綱 資料2 令和8年度西東京市特別支援教育推進計画策定スケジュール 資料3 特別支援教育に関する国・都の動向 資料4 西東京市におけるこれまでの特別支援教育の取り組みについて 資料5 西東京市特別支援教育推進計画施策体系（案） 参考資料 特別支援教育の一層の充実に向けて
記録方法	☐ 全文記録 ☐ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☒ 会議内容の要点記録
会議内容	
議題1 委嘱状の交付について 鈴木教育指導課長から各委員へ委嘱状を交付 議題2 座長、副座長の選任について 「西東京市特別支援教育推進計画策定懇談会設置要綱」に基づき、委員の互選により長沼座長、前田副座長を選任した。 議題3 特別支援教育の一層の充実に向けて ○事務局 （参考資料「特別支援教育の一層の充実に向けて」に基づいて説明） ○長沼座長 参考資料にスポーツ大会の動画（障害のある子どもとない子どもが共に空手の演武を披露する動画）があったことで、様々なことを考えさせられた。川崎市立中学校では、総合的な学習の時間と関連付けて、インクルーシブ運動会を実施している。 議題4 西東京市特別支援教育推進計画策定スケジュールについて ○事務局 （資料2「令和8年度西東京市特別支援教育推進計画策定スケジュール」に基づいて説明） ○事務局 庁内検討委員会と本懇談会を両輪とし、相互に情報や意見を共有しながら策定を進めていく。校長会にも適宜情報共有を図っていく予定である。	

議題5 特別支援教育に関する国・都の動向について

○事務局

(資料3「特別支援教育に関する国・都の動向」に基づいて説明)

○長沼座長

次期学習指導要領に、学習の理解に課題のある児童・生徒の学習補填についても盛り込まれる動きがあるため、本計画においても触れられたらよいと思う。また、国立特別支援教育総合研究所(NISE)は、国や東京都の動向だけではなく、共同学習や交流事例のデータバンクとしても機能しているため、実際の交流のヒントを得るためにも活用してもらいたい。

○中島委員

東京都では、教員の専門性向上に注力している。特別支援学校のセンター的機能を活用するだけでなく、1年～3年といった短期で特別支援学校と小・中学校との教員間の異動を行うことで、特別な支援の必要な児童・生徒への実践的な支援方法への理解を深めている。

○平林委員

障害者の権利に関する条約や障害者差別解消法では、合理的配慮の重要性が強く提唱されている。本計画にも、合理的配慮を行うための環境整備として、小・中学校のバリアフリー化を盛り込めるとよい。また、社会的障壁をどのように減じていくかを具体的に検討し、環境整備をしていく必要がある。

議題6 西東京市におけるこれまでの特別支援教育の取り組みについて

○事務局

(資料4「西東京市におけるこれまでの特別支援教育の取り組みについて」に基づいて説明)

○長沼委員

児童・生徒数が減少するのはわかるが、特別支援学級の児童・生徒数が今後も増加傾向にあると推察する根拠は何か。

○事務局

令和7年1月に出された西東京市特別支援学級配置計画において示されている令和元年度から6年度までの特別支援学級児童・生徒数の推移に加え、就学相談件数も年々増加傾向にあることを根拠に推察した。

○前田副座長

前任校では、児童数に対して教室数が足りず、環境を改善すればさらに力を伸ばせる児童が多くいるはずだと感じていた。今年度特別支援学級の設置校が増えたが、せっかく措置をしても、児童・生徒数の推移の見込みが甘ければ数年後にはまた同じような現象が起きることが危惧される。

西東京市の子育てしやすい環境や、市で把握している未就学児で今後支援を必要としてくるであろう子どもの数を鑑みると、今後も特別支援学級の児童・生徒数は増加傾向であることは確かであると考えている。

また、西東京市の特別支援学級はスクールバスが運行しており、他市と比較して魅力を感じる保護者が転入してくるといったケースも聞いたことがあるため、今後も特別支援学級の在籍児童・生徒数は増加していくと思われる。

○長沼座長

環境を整えるためにはどれほどの子どもたちにどれだけの対応が必要なのか、人的な環境も含め余裕をもって見込んでいく必要がある。

○平林委員

特別支援学級児童・生徒数の推計には、途中で通常学級から特別支援学級へ転籍する児童・生徒数も加味しておくといよい。通常学級における合理的配慮が不十分だと、特別支援学級へ転籍する児童・生徒数の増加にもつながる。

○中島委員

特別支援学校で自信をつけ、力を伸ばすことで、特別支援学級へ転籍した児童・生徒の事例もある一方、特別支援学級から特別支援学校へ転籍してくる児童もいる。

○長沼座長

「連続性のある学びの場」の考え方としては決して悪いことではない。入学してからの転籍も加味して、特別支援学級在籍児童・生徒数を推計できるとよい。

○長沼座長

西東京市の特別支援教室は拠点校の教員が巡回して指導にあたっているという理解でよいのか。

○事務局

そのとおりである。

○影山委員

年々特別支援学級に転籍してくる児童が増加していることを実感しているが、一方で、バス通学が難しく、特別支援学級への転籍をためらうケースもあると思われる。そのため、学校別の特別支援学級への転籍者数についても把握できるとよい。

子どもは特別支援学級に在籍し、毎日楽しく学校生活を送っている。また、指導内容や環境についても保護者として満足しているため、今回のアンケート結果にはおおむね同意である。

教育委員会からの情報提供について課題があるとのことだったが、保護者の立場からは情報が少ないことが必ずしも悪いことだともいえないのでは。教育委員会から直接受け取りたい情報が思いつかないため、情報提供に関する数値が低くなっているものと考え。学校からのお知らせに加え、教育委員会からの情報発信も増えると情報過多に陥る可能性もあるため、必要な人が必要な時に、欲しい情報がすぐに提供してもらえる・アクセスできる環境が整っていればよいと思う。

また、人的環境整備に関する数値が低いことから、民間企業や行政の力を借りながら、学校の先生方の負担軽減・労働環境の改善にあたってもらいたい。

○前田副座長

ことばの教室利用者についてのアンケート項目が盛り込まれている点が評価できる。小学校1年生児童全員をスクリーニングするという取り組みもよい。通常学級・特別支援学級・特別支援教室に加えて、ことばの教室も検討事項から洩らさず触れていきたい。

○平林委員

肢体不自由の児童・生徒の在籍状況、学校のバリアフリー化の状況と今後の計画についてもデータとして加えてもらいたい。

また、学習障害の早期対応のためのシステム作りは、発音話し方調べと並んで重要であると考え。

○長沼座長

児童・生徒数の数字をより正確に把握するためにも、転籍者や障害を持つ児童・生徒（例：肢体不自由・弱視・難聴等）について調査の上、データに加えてもらいたい。

○事務局

次回懇談会までに統計データを整理する。また、エレベーターについては、中学校は全校配置

となっている。給食運搬のために用いられているが、肢体不自由な生徒も使用可能としている。なお、小学校では給食運搬用途のみのマイクロエレベーターのみの設置となっている学校もある。

議題 7 西東京市特別支援教育推進計画施策体系（案）について

○事務局

（資料5「西東京市特別支援教育推進計画施策体系（案）」に基づいて説明）

○長沼座長

本懇談会の全体をとおして、各委員からのご意見を承りたい。

○影山委員

障害の程度によって、将来の自立の度合いには差が生じると考える。障害を持つ子どもの保護者として、本計画で小・中学校在籍期間だけではなく、将来の自立の方向性を示してもらえると安心できる。

○事務局

今回の会議は6月29日（月）を予定している。開催通知は後日発出させていただく。

本日の議事要旨は、後日メールで送付させていただき、委員確認後の第2回会議に了承を得て公開とさせていただく。

<閉会>